

肢体不自由について

肢体不自由とは

- 肢体不自由は、脳や神経、筋肉、関節などの運動や動作に関係する器官に問題が起きて、両手両足、体幹などがうまく動かせず、歩けない、物が持てないなど、日常生活に支障がでている状態です。
- 脳に関しては、麻痺や不随意運動、失調などがあります。また、神経に関するものとしては、交通事故や高い所からの転落などで背骨を骨折した人に起こる**脊髄損傷**などがあります。
- 筋肉に関しては、**筋ジストロフィー症**という全身の筋肉の機能が低下する病気などがあります。また、関節に関する病気としては、加齢により関節が変形する**変形性関節症**などがあります。
- 運動や動作に関する障害のほか、心臓や肺、腸、膀胱などの内臓がうまく機能せず、日常生活に大きな制限を受ける**内部障害**があります。

言葉の説明

- **補装具**…障害のある人の身体機能を補い、または代替し、長期間にわたり継続して使用されるもの（例：義手、義足、車椅子、義眼、補聴器など）

こんなことに困っています！

- 車椅子を利用する人は、十分なスペースがなかったり、ちょっとした段差があると、移動できないことがあります。
- 脊髄損傷の人では、手足がうまく動かさないだけでなく、感覚もなくなったり、体温調節がうまくできない人もいます。
- 口や舌の動きが麻痺していると、言葉を使って自分の思いを十分に伝えることが困難な人もいます。
- 内部障害がある人は外見からはわかりにくく、周りから理解されにくいいため、電車やバスの優先席、多機能トイレ、障害者専用駐車スペースを利用しにくいなど、心理的ストレスを受けやすい状況にあります。
- 心臓機能障害により心臓ペースメーカーを使用している人では、携帯電話・スマートフォンなどから発せられる電磁波などの影響でペースメーカーが誤作動を起こす恐れがあります。また、呼吸器機能障害がある人は、たばこの煙などに影響を受けます。
- 腎臓機能障害がある人の中には、人工透析治療などにより定期的な通院が必要な人がいます。また、膀胱・直腸機能障害で人工肛門や人工膀胱を使用している人は専用のトイレが必要です。

コミュニケーションのポイント

- 車椅子を利用する人などは、手で開閉するドアを開けたり、低い所にある物や高い所にある物をとることが困難です。困っている様子であれば、「何かお困りですか」などと声をかけましょう。

ポイント 車椅子を利用する人に話しかけたり、会話する場合は、立って話をするところから見下ろしているような心理的負担を与えるので、かがむなどして視線の高さを合わせましょう。

- 介助者がいつしよにいても、必ず本人の意思を確認しましょう。麻痺などにより会話が困難な人でも話の内容は理解できます。介助者への確認だけでは、本人の意思を無視することになってしまいます。
- 車椅子を利用する人の中には、車椅子を体の一部と考えている人もいます。いきなり車椅子に触ったり、押し始めるのではなく、手助けの前には、車椅子を利用する人に手助けの方法などを確認しましょう。
- 内部障害がある人は、体力や免疫力が低下している場合が多いので、いつしよにいるときは、重い荷物を代わりに持ったり、風邪をうつさないように配りましょう。

望まれる心配りの例

- 通路などの歩行空間に通行を妨げる物などを置かないようにしましょう。
- 店舗などの駐車場にある障害者専用駐車スペースに、特に必要のない人が駐車するのをやめましょう。
- 障害がない人は多機能トイレを長時間使用することがないようにしましょう。
- 呼吸器機能障害で酸素ボンベを使っている人の近くで、たばこは控えます。また、心臓機能障害で心臓ペースメーカーを使っている人の近くでは、携帯電話・スマートフォンの電源を切りましょう。
- 車椅子を利用する人や足が不自由な人が利用しやすいよう、店舗の入口などに段差がある場合は、スロープを設置するなど、段差を解消する工夫をしましょう。
- 肢体不自由がある人は、電車やバスなどの乗り降りや、建物の出入り、歩行などに時間がかかることがあります。どんな人にも個人差があることを理解して、無理に急がせるようなことはしないようにしましょう。

